

第 11 回アイヌ文化環境保全対策調査委員会 概要と論点

日 時： 平成 17 年 3 月 19 日（土）09：30～11：15

場 所： 沙流川歴史館レクチャーホール

出席者：

委員	辻 井 達 一	財団法人北海道環境財団理事長〔委員長〕
	岩 崎・グッドマン・まさみ	北海学園大学人文学部教授
	常 本 照 樹	北海道大学大学院法学研究科教授
	福 岡 イト子	財団法人日本私学教育研究所客員研究員
	川奈野 惣 七	社団法人北海道ウタリ協会平取支部支部長
	西 島 達 夫	社団法人北海道ウタリ協会平取支部副支部長
	鍋 沢 保	社団法人北海道ウタリ協会平取支部副支部長
	木 幡 サチ子	平取アイヌ文化保存会理事
	中 道 善 光	平取町長
	平 村 正	平取町教育長
	奥 野 均	平取町議会アイヌ文化伝承推進特別委員会委員長
	村 上 晃	平取町文化財審議会会長
事務局	島 田 正 一	平取町教育委員会文化財課長（事務局長）
	吉 原 秀 喜	平取町教育委員会文化財課主幹（事務局次長）
	貝 澤 一 成	平取町教育委員会文化財課主幹（事務局補佐）
調査室	貝 澤 耕 一	調査指導員

配布資料：

- 事前配布 アイヌ文化環境保全対策調査委員会第 11 回会議の開催について
（送付） 中間報告書第 部「調査業務中間報告書」訂正・変更箇所
アイヌ文化環境保全対策調査 中間報告 調査業務中間報告編（最終原案）
アイヌ文化環境保全対策調査中間報告書 第 部
調査委員会意見中間取りまとめ（原々案：2005-03-11）
シシリムカ・イオル文化大学第 8 回講座 講義録（抜粋）
- 当日配布 アイヌ文化環境保全対策調査委員会 第 11 回会議次第
第 10 回アイヌ文化環境保全対策調査委員会 概要と論点（案）
アイヌ文化環境保全対策調査中間報告書 第 部
調査委員会意見中間取りまとめ（原案：2005-03-17A）
アイヌ文化環境保全対策調査中間報告書 第 部
調査委員会意見中間とりまとめについての地元委員の意見メモ
中間報告書第 部「調査業務中間報告書」訂正部分の正誤表
アイヌ文化環境保全対策調査 中間報告 調査業務中間報告編（最終原案）
差し替えのお願い・正誤表
第 部原案第 2 章 5 ページの図を拡大
【平取ダム建設予定地の主な動植物や文化的所産等の模式図】
第 部原案第 4 章 5 ページの図を拡大
【アイヌ文化環境保全対策の基本的な考え方】

- 議 事： 1 委員長御挨拶・議案提起
2 開会御挨拶
3 報告・説明、質疑
（１）前回会議「概要と論点」確認
（２）中間報告書第 部「調査委員会意見とりまとめ（原案）」について説明
（３）「中間取りまとめ」（原案）について検討
（４）今後の調査の進め方について
（５）その他
4 次回日程確認等
5 閉会まとめ

内 容 (以下、A ~は発言者を指す)

- 1 委員長挨拶・議案提起 辻井委員長
2 開会挨拶 中道町長
3 報告・説明、質疑
（１）前回会議「概要と論点」確認 吉原主幹
（２）中間報告書第 部「調査委員会意見とりまとめ（原案）」について説明 吉原主幹
（３）「中間取りまとめ」（原案）について検討

【〔はじめに〕の質疑・協議】

委員長 ・地元委員の意見メモに「文章中のアイヌ系住民とアイヌの人達という表記をアイヌ系住民に統一してはどうか」という意見ですが、文章的に考えると統一は無理である。

A ・アイヌ文化のような言葉に付いているのは構わない。

委員長 ・読んでいて、アイヌ系住民にした方がよいというところについては、指摘していただければ直すということにする。

B ・カタカナ語をあまり使わないようにということだったが、〔はじめに〕には3つのカタカナ語があるけれども、これについてはこのままでよいか（アセスメント、ミティゲーション、アイデンティティ）。

A ・外来語を否定する訳ではないので、（ ）書きで、訳が付いているのであれば、このくらいは構わないと思う。

C ・今までにも理解できない言葉があったので、できることなら使ってほしくない。

D ・使っても構わないが一般の人が理解しやすいものを作ってほしい。

委員長 ・なるべく使わないようにしているが、訳してしまうと意味合いが変わってしまうのもあるので、最小限に使うということにする。

E ・下から4行目の「調査室のスタッフは、」から続く文章ですが、ここは委員会としても同じ考えではないか。「調査室のスタッフは」と限定する必要はないのではないか。

委員長 ・元々、委員会の確認なしの経緯の中で作成されたものだったので、あえて付けた言葉であったが、今回委員会も含めての考えであるということが確認でき

たので、この冒頭の部分は削除する。

【第1章についての質疑・協議】

委員長 ・ 5 / 5 の地図は見にくいので、今後見やすいように綺麗にする。

【第2章についての質疑・協議】

E ・ 1 / 5 の 2 段落目。2 行目に「開拓のために入植した人々」とあるが、「開拓」という表現のままで良いのか。

B ・ 報告書の記述からそのまま抜き出したので深く考えていなかった。変えらるなら、どんな表現方法があるか。

E ・ 住民を含めてこの表現で良いというのであればこのままで構わないが、他の地域では「開拓」という言葉を巡って問題になったこともあるので表現について協議した方がよいのではないかと。

F ・ 昔、開拓地というのがあって、私たちも土地を耕し開拓していたので、開拓という言葉が付いていても構わないのではないかと。

A ・ 田畑を切り開くためだけに入植した人ばかりではないと思うので「開拓のために」という言葉は付けなくて良い。

・ ここで書かれているように入植した和人にも聞き取り調査は行ったのか。

指導員 ・ 入植者の聞き取りは全員終わっている。ただ、戦後入植した人ばかりだった。

G ・ 2 / 5 5 行目「1858 年には松浦武一郎が糠平川・宿主別川沿いの地名を記録している」とあるが、ここについてはきちんとした文献はあるのか。
・ シケレベというアイヌ語表記が文章中と図で異なっているので、統一した方がよい。

事務局 ・ 2 / 5 5 行目についてだが、きちんと文献から調べて記載している。

【第3章についての質疑・協議】

G ・ 精神文化が表れていて大変良くできている文章だと思う。ただ、2 / 4 の上から3 行目「ホッチャレは革靴などに加工され」とあるが、この革靴の革という表現は毛皮を鞣して作った場合に使われる漢字なので、この場合は、「ホッチャレの皮を靴などに」のように表記するのが正しい。また、この続きの「暮らしの用材として」の「用材」という表記も「素材」と直したほうがよい。

A ・ 靴はホッチャレだけで作ってはいないので、ホッチャレと限定しないほうがよいのではないかと。

指導員 ・ 「ホッチャレ」という表記を「遡上したサケの皮」に直すことにする。その方が理解しやすい。

A ・ 3 / 4 の下から6 行目「キムンカムイの胆嚢、膏、心臓」の膏（あぶら）という字のように難しい字には、ふりがなを付けてほしい。

G ・ 「膏」の表現については、私はこういう場合「獣脂」と表現する。

事務局 ・ 薬ということを強調するために、あえてこの「膏」という字を使った。

委員長 ・ 後に「大事な薬として」という表記があるので（あぶら）のようにふりがなをふるか、（ ）書きで書くことにする。

【第4章についての質疑・協議】

D ・ についてだが、2 年前の大水害により行われている工事のため川が汚染されている。これからの洪水対策、いろいろなことを総合的に踏まえて、きれい

な川をなんとかして回復していただきたい。基本的には水害に耐えうる山の構成を。ダム周辺、地すべりを防ぐためにも、広葉樹の植栽を是非やっていただきたい。ダムができてからそういうことを始めるのか、ダムの着工前にすべきものはするという考えなのか。

- 委員長 ・まさに、長期的なものだろうけれども、水害に耐えうる山を作るということになるので、川の周りだけじゃなくてもっと広い範囲を考えていかなければならないのではと思う。
- 町長 ・森林整備はダムとは別に考えている。また、ダムができることによって失われる森林を補うことも考えているので、広葉樹の植林ということも考えている。
- D ・全くダムと隔たった時期的環境でやるのは、意味としてちょっとそぐわないのではないかと。タイミングをあわせた方向でやっていただければと考えている。
- 委員長 ・おっしゃることはごもっともで、基本的にそういう広い範囲での森林の保全が大事ではないかと言う事を、何等かの形で組み込むというのは考えてもいいのではないかと。
- H ・アイヌ民族は自然と共生していた民族で、沙流川・糠平川流域はアイヌ民族にとって貴重な場所であったと思う。ダムだけに関係する訳ではないが、失われた自然が元に戻るよう努力していくことが、我々議会側として関心を持ち協力しているということに繋がるので、自然環境の保全については努力していきたいと思っている。この調査の中にも、そういう自然を確保できるような環境に努力していくというような言葉や表現をどこかに入れていただければ大変ありがたい。
- 町長 ・水没地域周辺の森林管理についてはきちんとやるということは書いている。例えば、水没区域周辺の森林を河川管理域に取り込み、必要な手立てを講じていくということで挙げている。そういうことが行われれば、森林の保全、管理そのものが、地域全体を含めて沙流川流域圏ということで対応していくと思っている。
- 委員長 ・流域管理というのは、河川の周りだけの問題ではなくて、広い範囲の森林から出発しなければ本質的なものにならないのではないかと。それは大事なんだということは、どこかに表現としては書けると思う。
- A ・5の3の(4)だが、ダム湖の出現によって動物等の活動パターンが変化するという事は十分理解される。台風の後、予定地の上流奥まで入っていったが、山が荒れていて入れない状態。もし時間的余裕があれば調査委員会の方にも一度見ていただきたい。なぜこれが必要であるかという、動物の活動パターンが変わる。奥が非常に荒れている場合、動物が生存するためにどのような形で移動するか考えなければならぬだろう。その上でどういう対策が今後必要なのかということが当然出てくるだろうと思う。その点ご検討いただきたい。
- 委員長 ・それは、17年度の調査にそういう項目を加えたらいいと思うが。
- A ・是非期待したい。
- 教育長 ・魚道の整備についてだが、二風谷ダムに作られた魚道の状況についてダム供用後のモニタリングをするという話があったが、どういう遡上状況かを見せていただきたい。

川村所長 ・ダム管理所では毎日ではないが、定期的に遡上調査を行っている。調査記録のデータは管理所にあるので、調査室に提供したいと思う。

【おわりについての質疑・協議】

町長 ・コタンとイウォロの理解の仕方という、平取ダム周辺は「イウォロ」、二風谷ダム周辺は「コタン」と理解していた。今回の調査区域は、コタンの発想ではなくてイウォロ的発想というか、特に自然環境・資源を確保するために必要なエリアと考えている。

A ・私はコタンも含めた狩猟の場を「イウォロ」と思っていたが、どうなのか。

事務局 ・文献によって少し違う。

指導員 ・今のところ聞き取りでは、狩り場としてのイウォロであったと聞いている。

G ・この押さえで良いと思う。

委員長 ・ここのコタンとイウォロについては、大塚先生にも確認したところ、分かりやすいのでよろしいのではないかというお話だった。

B ・二風谷ダム周辺の空間認識がどうであるかっていうこと、ここで二風谷ダム周辺は「コタン」、平取ダム周辺「イウォロ」と、突然、対比されているのではないか。

委員長 ・次のステップへいく段階という意味あいでのこのような文章になった。

D ・「イウォロ」と「コタン」について、皆さんがここまで真剣に協議するとは思わなかった。大別するとイオルでいいが、中身を精査すると、身近で主に山菜を収穫する範囲、動物を捕える場のどちらも含まれるので、どのように整理できるか考えている。

委員長 ・文章的に唐突にならないように校正したいと思う。

(4) 今後の調査の進め方について

事務局 ・いろいろな事情により委員の人数が減ったので、来年度に向けて委員の選定を行いたいと思っている。

B ・来年度以降の提案だが、昨年10月から私と北大の社会学・心理学の先生で二風谷ダム周辺の聞き取りを行っている。聞き取りから分析を進めている中で、ダムの影響に関わるようなことを抜き出したところ16項目くらいあった。本来、このような調査は調査室が行うべきであると思う。作業の量と人手の問題もあるが、今後この調査を調査室で行うという形で委員会で協議し決めていただきたい。

委員長 ・大事な問題ではあるが、今後の作業の量からできるかどうか調査室の中で検討をしていただきたい。

【第11回調査委員会のまとめ】

中間取りまとめについて

カタカナ語をすべて和訳してしまうと意味合いが変わってしまうものがあるので、最小限に使っていくこととする。

〔はじめに〕の最後から4行目の「調査室のスタッフは」という言葉は削除する。

地図等は見にくいのでもう少しきれいに見やすく工夫する。

「開拓のために入植した人」という文章の「開拓のために」という部分は削除する。

文の中のアイヌ語表記と図の中のアイヌ語表記は統一する。

難しい漢字にはふりがなをつける。

図表に番号を付ける。

4 次回日程確認等

- ・ 4月23日(土)を目処に、17年度の最初の調査委員会を開催することとする。

5 閉会まとめ

辻井委員長